



## 2015年環境レポート



新田ゼラチン株式会社 大阪工場

## ごあいさつ

当社は創業以来、天然素材を主原料にして高付加価値製品を作り出す事業を行って参りました。

主力製品であるゼラチン・コラーゲン・コラーゲンペプチドの製造には多くの水資源、エネルギーを必要とするため、省資源・省エネには積極的に取り組み、設備更新時には省エネを考慮し、環境への配慮を行っております。また、政府と電力会社への継続的協力として、夏・冬の平日昼間の電力需要ピーク時の節電にも積極的に取り組んでおります。

2014年度は、主力製品の生産量が減少したため、その影響で原単位(生産量1t当たり)のエネルギー消費量は前年度比微減でした。CO<sub>2</sub>排出総量は減産の影響で、こちらは大幅に減少しました。

これからも「人と環境に優しいモノづくりの追求」を合言葉に環境負荷低減を図り、社会に貢献する企業を目指していく所存です。

2015年 5月 21日  
取締役 環境管理担当  
佐々木 恒雄

## 環境方針

### 大阪工場環境方針

人と環境に優しいモノづくりの追求を通じて、社会への貢献と、かけがえのない地球環境を守る事業活動を行います。

- 環境目的・目標を定め、定期的に見直し、継続的改善を実施する
- 省資源、省エネおよび廃棄物の削減に取り組む
- CO<sub>2</sub>削減に努め、地球温暖化防止に貢献する
- 電力需要ピーク時の節電に努める
- 法順守を合い言葉に地域社会とコミュニケーションを図り、環境保全活動に取り組む
- 環境方針および環境活動内容を開示する
- 教育・社内広報などを通じて全従業員に対し、環境意識の向上を図る

2014年 4月 1日

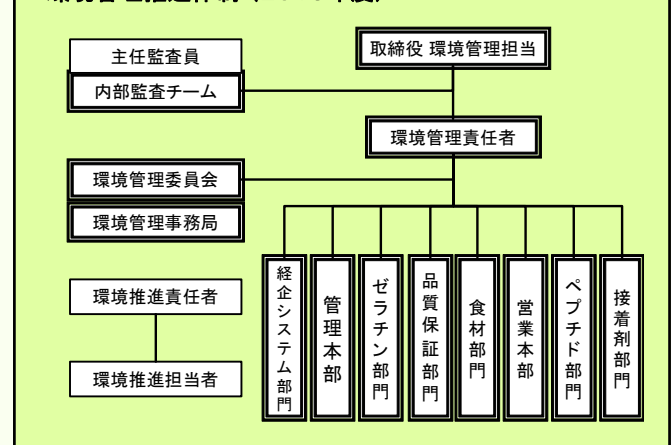
## 推進体制

大阪工場では、経営層(取締役環境管理担当)、環境管理責任者、各部門長である環境推進責任者と主任監査員及び環境管理事務局から構成される「環境管理委員会」を四半期毎に開催しております。環境目的・目標の進捗管理等、環境マネジメントシステムの運用状況については、同委員会で報告・協議し、方針決定しております。

毎月各部署で収集される環境パフォーマンスは環境管理事務局で集約管理し、必要に応じて環境管理責任者が対応策を検討します。

マネジメントシステム全体の監視は内部監査チームが行いますが、構成員の監査員は、毎年数名ずつ新たに社内認定し、既に監査経験のある監査員に対しては社外のリフレッシュ研修を実施する等して、できるだけ視点がマンネリ化しないように努めております。

### 環境管理推進体制(2015年度)



## 環境への取り組み

当社大阪工場は、多量のエネルギー・水資源を使用し、大きな環境負荷を与えています。これらの負荷軽減のために大阪工場では継続的な取り組みを進めてきました。

### 1. 過去10年の取り組み

- 2005年 高効率型ボイラーへの更新（5か年計画－開始）
- 2006年 乾燥工程冷温水機を高効率型へ更新（4か年計画－最終）
- 2008年 多連ボイラー集中制御装置を更新（エネルギー効率の向上）
- 2010年 高効率型ボイラーへの更新（5か年計画－最終）
- 2012年 高効率型濃縮機導入による省エネ・CO<sub>2</sub>削減  
工場全体の節電対応（シフト生産、業務部門の省エネ対策）  
ファックスのペーパーレス化によるコピー用紙削減
- 2013年 高効率型濃縮機の安定稼働  
工場全体の省エネ活動推進  
社内イントラネット導入による業務効率化、ペーパーレス化
- 2014年 コージェネ発電機の排熱回収設備導入  
工場全体の継続的省エネ（大型設備の効率運転、製造設備のインバータ化推進 等）



高効率型濃縮機

### 2. 今年度の取り組み

- ・工場全体の継続的省エネ推進  
（照明設備のLED化等 省エネタイプへの変更、OA機器の省電力設定、省エネパトロールの実施）
- ・政府節電要請期間（夏期及び冬期）の電力需要ピーク時の節電対応  
（工場のデマンド管理、昼間休憩時間内の不要な空調・照明の停止、手洗い場ハンドドライヤーの期間内停止、クールビズ・ウォームビズの励行、エレベーター不使用、個人使用暖房器具の使用禁止 等）

### 3. その他の取り組み

- ・冷却水系統クーリングタワー循環水薬注によるスライム除去、定期清掃
- ・製造工程の効率化により、エネルギー効率を向上
- ・紙包材の紙資源化、熱資源化
- ・フレコンバッグの再利用
- ・グリーン購入調達の推進
- ・人感センサー設置による照明自動消灯
- ・事務用品の再利用化による購入削減の啓蒙活動
- ・廃プラ・廃油の有価リサイクル化
- ・使用済みポリ袋の地域団体での再利用

## 2014年度 環境活動実績 (2014年4月1日～2015年3月31日)

大阪工場では、年間計画に基づいて環境活動を推進し、目標達成に努力しております。

2014年度エネルギー原単位は、前年度比微減で、わずかながら目標達成しました。

CO<sub>2</sub> 排出量は、前年度に比べ大幅に減少しましたが、大半は減産の影響によるものでした。

廃棄物についてはリサイクル化を推進し、埋立廃棄物は極力排出しないよう努力していますが、昨年度は新社屋建設に伴う実験設備廃材が予想以上に発生し、排出量目標をやや上回りました。

廃棄物リサイクル率については、これまで通り100%近い状態を維持できています。

水資源については、市水道が実験関係での使用量増や厚生施設の改築に伴う設備変更により増加傾向にあることから前年度10%増以内に抑える目標設定を行いました。目標をわずかに上回りました。

紙資源については、社内IT化を進めて無駄な印刷を極力なくしコピー用紙使用量を減らす努力をした結果、前年度比で大幅に削減しました。

その他法順守、化学物質管理、苦情対応等については適正に処理できています。

環境目的	環境テーマ	実績	評価
環境法規制順守	環境法規制に基づく運用管理の徹底	予定通り実施	○
	是正措置の実施	異常なし	○
	環境影響の予測	新規導入設備のアセスメントを2件実施	○
省エネルギーの推進	製造エネルギー原単位の削減(前年実績未達)	1.2%削減で、目標達成	○
CO <sub>2</sub> 排出量削減	大阪工場全体のCO <sub>2</sub> 排出量削減(前年度比 -1.0%)	8.0%削減で、目標達成	○
廃棄物の削減	埋立廃棄物の削減(5t以下)	排出量 6t(目標+18%)で未達	×
廃棄物の適正処分	廃棄物リサイクル化の維持・管理	廃棄物リサイクル率 99.5%	○
水資源の削減	市水道使用量の削減(前年実績+10%未達)	前年度+11.6%(目標+1.6%)で未達	×
紙資源の削減	紙の使用量の削減(前年実績未達)	12.1%削減で、大幅に目標達成	○
化学物質の適正管理	化学物質の適正管理	適切に管理されている	○
環境教育の推進	一般啓蒙教育の推進(都度)	予定通り実施	○
	啓蒙活動の推進(3回/年)	予定通り実施	○
	指定業務教育の推進(都度)	予定通り実施	○
	内部監査員教育の推進(1回/年)	予定通り実施	○
工場周辺の環境整備	地域清掃の実施(2回)	予定通り実施	○

○：目標達成

△：前年実績は下回るが、目標は未達

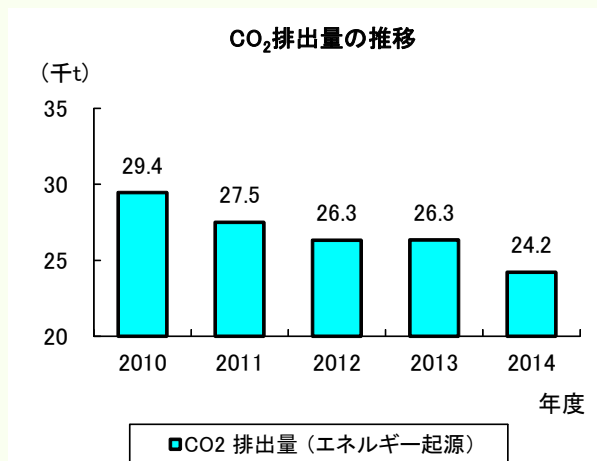
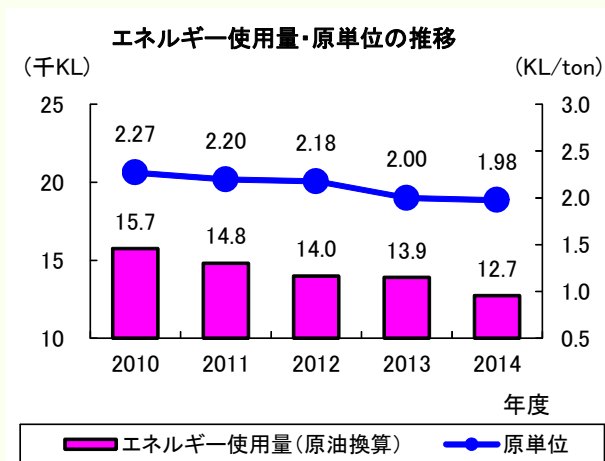
×：前年実績・目標ともに未達

## 省エネ活動とCO<sub>2</sub>削減への取り組み

製造部門では、高効率型濃縮機やコージェネ排熱回収設備を導入してエネルギー効率を高め、工程の改良に努めています。また業務部門でもOA機器や照明・空調などの省エネ推進を展開しております。

2014年度は、ゼラチン生産量が減少したため、エネルギー使用量(原油換算)は前年度比8.4%減少でしたが、原単位(製品1トンあたりのエネルギー使用量)は前年度比マイナス1.2%の微減でした。

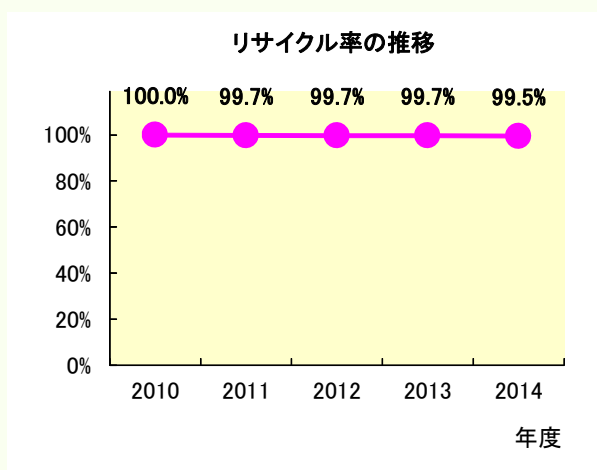
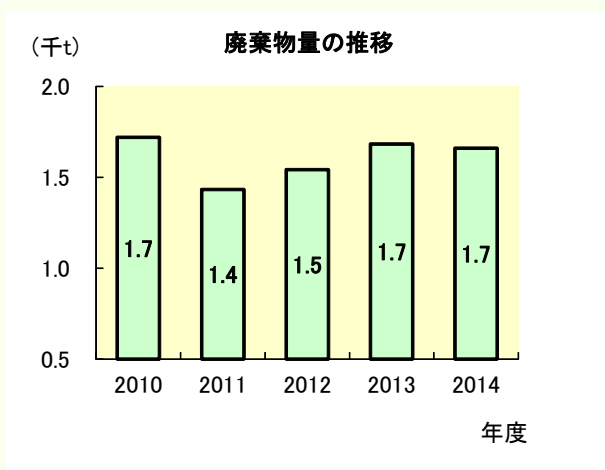
CO<sub>2</sub>排出量(総量)は、生産量減少の影響により前年度比8.0%減少という結果でした。



## 廃棄物削減活動

2014年度廃棄物排出量は、前年比1.3%減の微減でした。

全廃棄物のリサイクル処理率(熱リサイクル含む)は99.5%で、ほぼ100%を維持しています。

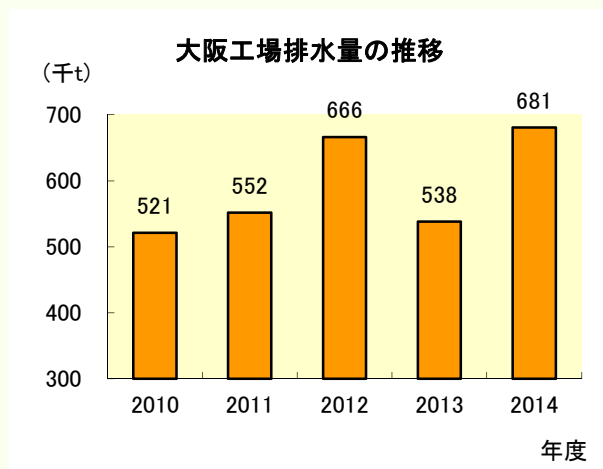


# 省資源活動

## 1. 水資源

ここ数年、工程排水の再利用等による取水量削減に取り組んでいます。2014年度は製品品質の維持・向上のために一部製造工程を見直した影響で、一時的に取水量が増加し、排水量も増加しました。

今後も引き続き作業工程の見直し等により、製品品質を維持した中で水の使用量削減に取り組んでいきます。

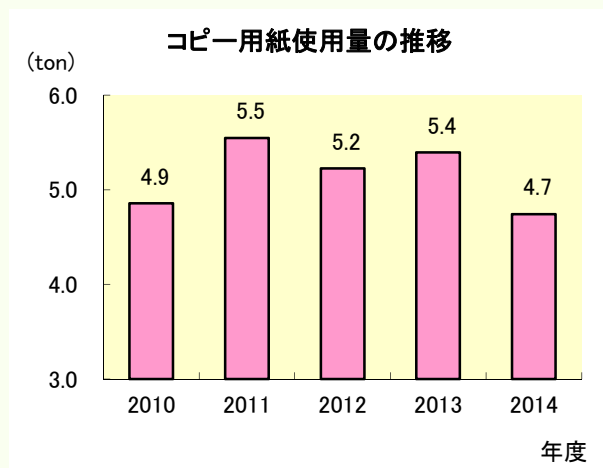


## 2. 紙資源

2014年度は、社内イントラネットやクラウドの活用による社内IT化を推進しコピー用紙削減に努めました。

結果、前年比で12.1%削減しました。

今後も、よりいっそうの業務効率化を推進し、紙資源の節約努力を行っていきます。



## 教育活動

大阪工場で働く全ての従業員を対象に、新入社員教育、一般教育、推進担当者教育等を推進し、意識向上・啓蒙活動に努めています。

### 1. 環境セミナー

工場の全従業員対象の啓蒙活動を目的とした環境一般セミナーを7月に行いました。

2014年度は、接着剤新社屋建設時の環境配慮について施工業者から説明をいただき、従業員の意識向上を図りました。



環境一般セミナー（2014年7月）

### 2. 社内報

社内報には、定期的に環境特集記事を掲載し、環境活動の重要性や社内での活動報告を行い、従業員の意識向上を図っています。



社内報記事（2015年1月）

## 緊急事態対応

### 1. 消防訓練

毎年八尾市消防署の指導の下、消防訓練を行っています。

2014年度は10月に火災発生を想定した避難訓練、自衛消防団による放水訓練、消火器訓練、AEDの実地訓練等、多岐に渡って行いました。



消防訓練（2014年10月）

### 2. 模擬訓練

工場内で緊急事態が生じたときの環境汚染の拡大を防止するため、各対象部署において事故・緊急事態を想定した模擬訓練を実施しております。

2014年12月には接着剤工場においてオイル漏洩を想定した模擬訓練を行いました。



オイル漏洩模擬訓練（2014年12月）

# 企業市民としての活動

## 社会貢献活動

地域の方々との関わりの中から、信頼される良き企業市民として地域社会との共生に努めています。

### 1. 地域清掃

2001年度から始まった周辺地域の清掃も定着し、現在は年に2回ずつ行っております。

2014年度は6月と12月に実施し、それぞれ60名弱の従業員が参加しました。



工場周辺清掃（2014年12月）

### 2. 地域緑化

地域の緑化に貢献するために、定期的に敷地内にハナミズキ等を植樹しています。

毎年4月には、入社式の一環で新入社員と関係者で記念植樹を行います。



記念植樹の様子（2015年4月）

### 3. 工場緑化

工場内の緑化にも力を入れております。

中庭を始めとして、正門横や各社屋の周辺には季節の花が咲き、来社されるお客様や見学者の心を和ませています。



工場内風景（2014年5月）

### 4. 工場見学

毎年、近隣小学校の社会科見学を積極的に受け入れております。2014年度は10校総勢750名弱の児童・教職員の方々に工場を見学いただきました。

見学の他、ゼラチンを使ったお菓子づくりの体験やシンクロナイズドスイミングにおける頭髮の固定化例を実演を交えて説明し、ゼラチンの特性や利用例について広く紹介しております。



近隣小学校工場見学の様子（2014年10月）



## 2015年度 環境目的及び目標

2015年度の大阪工場環境保全活動の目的・目標は、2014年度の実績・見直しを基に、具体的な行動展開につなげるべく目標を設定して推進して行きます。

環境目的	環境テーマ	目標値
環境法規制順守	環境法規制に基づく運用管理の徹底	法順守
	是正措置の実施	実施
	環境影響の予測	アセスメント実施
省エネルギーの推進	製造エネルギー原単位の削減 (省エネ法への対応)	前年実績未滿
CO <sub>2</sub> 排出量削減	大阪工場全体のCO <sub>2</sub> 排出量削減	<b>2013年度</b> 実績未滿
廃棄物の削減	埋立廃棄物の削減	5t 以下
廃棄物の適正処分	廃棄物リサイクル化の維持・管理	排出量管理
水資源の削減	排水量の削減	監視
紙資源の削減	紙の使用量の削減	前年実績未滿
化学物質の管理	化学物質の適正管理	使用量管理
環境教育の推進	一般啓蒙教育の推進	都度実施
	啓蒙活動の推進	3回／年
	指定業務教育の推進	都度実施
	内部監査員教育の推進	1回／年
工場周辺の環境整備	地域清掃の実施	2回／年

発行元 : 新田ゼラチン株式会社 大阪工場  
発行責任者 : 環境管理責任者 吉村 充浩  
発行日 : 2015年 6月 1日  
お問合せ先 : 大阪工場 管理本部 工場管理センター(小田)  
住所 : 〒581-0024  
大阪府八尾市二俣2-22  
電話 : 072-948-7190(直)  
FAX : 072-948-8207

表紙写真 : 大阪工場 クラブ中庭  
撮影年月 : 2015年5月